

令和6年度 認定こども園自己評価結果報告書

1. 本園の教育・保育目標

子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人間形成の基礎を培うため、生活や様々な経験を通して生きる力の基礎を育むことを目標にする。

教育の目標

- ◎人の話を聴く力を育てる
- ◎集中力を身につける
- ◎ルールを理解し守る力を育てる
- ◎良い人間関係をつくる力を育てる
- ◎五感を使い感じ取る力を育てる

保育の目標

- ◎愛されていると実感し意欲的に生きていく力を育てる(養護)
- ◎よく食べて、よく遊び、よく眠る(健康)
- ◎命あるものすべてを大切に思い、自分も大切にする子ども(人間関係)
- ◎身近な環境や自然とのかかわりの中で、自分で考え行動できる力を育てる(環境)
- ◎人の話をよく聞き、自分の考えを話し、伝え合う喜びを味わう(言葉)
- ◎心の動きを自分なりに表現する豊かな心を育てる(表現)

2. 令和6年度の園のテーマ

令和6年度は園全体のテーマではなくクラス単位のテーマでやってみることにしました。どのクラスも子どもの主体性に重きをおいた内容で「やってみよう」と鼓舞する言葉で子どもの意欲を引き出すことを目標にしています。

- にじ組 一人ひとりの個性がひかり輝くクラス
- たいよう組 やってみよう！～やりたいことには、どんどんチャレンジ！～
- ほし組 思ったこと考えたこと言ってみよう！やってみよう！
- うさぎ組 「やってみたい」がいっぱい!!一人ひとりの“楽しい”“好き”を見つけよう!!
- りす組 “おもしろい”を見つけよう！広げよう！楽しもう！
- ひよこ組 楽しい！心地いい！～笑顔が生まれる安心できる場所に～

3. 目標・計画の達成及び取り組み状況

保育内容の共通認識	乳児保育 ・育児担当の導入 ・一人ひとりの子どもの発達をその子どもの状況に合わせて援助する。 ・食事・排泄・着脱(決まった大人が決まった子どもの世話) ・愛着関係 幼児保育 ・異年齢保育(相手を思いやる気持ち。尊敬やあこがれ) ・遊びや生活を通しての学び。主役は子ども。(体験型テーマ保育)
保育教諭の資質向上	専門性をより深めるため研修の充実・参加 (月1回心理士による巡回・勉強会) 専門書を読むことで自己研鑽 目標の設定(月案・週案・個別記録など)振り返り
保護者に対する支援	子どもの成長の喜びを共有 (連絡ノートの活用・保育参加・個人懇談・行事への参加)

	保育内容の説明(ドキュメンテーションの掲示など) 子育てに関する相談・援助 保護者への個別支援				
地域子育て支援	保育所機能の開放(マイ保育園・園庭開放・一時預り事業) 関係機関との連携 情報提供				
健康及び安全	<table border="0"> <tr> <td>健康</td><td> ・規則正しい生活習慣を身につける ・運動会前に尿検査実施(3・4・5歳) ・健康診断の実施(内科(年2回)・眼科・歯科・聴力検査・視力検査) </td></tr> <tr> <td>安全</td><td> ・災害への備え 安全計画作成・見直し ・日常から保育者の指示に耳を傾け緊急の場合は慌てずに行動する。 ・避難訓練・総合防災訓練・防犯訓練・交通安全教室 </td></tr> </table>	健康	・規則正しい生活習慣を身につける ・運動会前に尿検査実施(3・4・5歳) ・健康診断の実施(内科(年2回)・眼科・歯科・聴力検査・視力検査)	安全	・災害への備え 安全計画作成・見直し ・日常から保育者の指示に耳を傾け緊急の場合は慌てずに行動する。 ・避難訓練・総合防災訓練・防犯訓練・交通安全教室
健康	・規則正しい生活習慣を身につける ・運動会前に尿検査実施(3・4・5歳) ・健康診断の実施(内科(年2回)・眼科・歯科・聴力検査・視力検査)				
安全	・災害への備え 安全計画作成・見直し ・日常から保育者の指示に耳を傾け緊急の場合は慌てずに行動する。 ・避難訓練・総合防災訓練・防犯訓練・交通安全教室				

4. 認定こども園の総合的な評価結果

園がまさに変わろうとしているのを感じる一年でした。

子どもを大切に子どもを中心に考える姿勢は変わりませんが主役は子どもだけでなく、職員でもある。職員がいかに輝き、生き生きと働けるかにもスポットをあて、研修にも取り組んできました。職員が自ら考え、発言し行動を起こすという主体的な部分が顕著に現れ始めました。

5年計画での研修ですが中盤を迎え職員一人ひとりが自信を持ち始めているのを感じます。

当たり前のように続けてきたことにも疑問や変更した方がいいところなど、みんなが他人事ではなく意見を言い合える土壌が出来つつあるようにも思えます。5歳児のデイキャンプをわくわくデーに、乳児生活発表会をすくすくフェスティバルと名称を変えました。

地域との連携では近隣の泉北高校生が琴の演奏を5歳児に聞かせに来てくれました。初めて見る琴という楽器、その音色に子どもたちは感激し、高校生との関りも貴重な体験となりました。その後クリスマスにも交流する機会を持ち年齢に関係なくお互いに良い刺激をうけました。保護者に対する支援では年長の配慮児を小学校に接続するにあたり不安が少しでもなくなるよう何度も保護者と話す機会を作るなど個別支援にも力を入れ、卒園式には子どもの成長とともに喜び合いました。

5. 今後の取り組むべき課題

保育内容の充実	異年齢保育をさらに充実させ、保護者の理解を深める。 体験型テーマ保育を充実させ、主体的・対話的な深い学びを更に充実させる。 認定こども園としての役割を理解し1号認定の子どもにも等しく教育・保育の保障をする。 評価・反省を繰り返す中で、子どもに必要な環境、健やかな成長のための保育を目指す。
小学校への連携	年長児やその保護者が安心して期待を持って進学出来るような取り組みを行う。 地域の小学校の行事や見学会に参加する。 進化する小学校の また、電話での聞き取りに対応する。 気になる子の引継ぎを密にする。
子育て支援の取り組み	特別な支援の必要な子ども(外国籍の子どもも含む)に対し、適切な指導や援助、関わりが持てるようにする。